

III. The *Dickens Lexicon Project*の概要

今 林 修 (広島大学)

1. はじめに

The *Dickens Lexicon Project* は、広島大学と熊本大学出身の 20 名の研究者で構成された 1998 年に結成されたプロジェクトです。その究極の目的は、山本忠雄博士が構想したが、ついに生前に完成を見なかった The *Dickens Lexicon* (以下 *DL* と略す) のために博士が自ら収集した 58,273 枚にもおよぶ手書きのカードをコンピュータに入力し、多機能検索エンジンを搭載した The *Dickens Lexicon Online* としてインターネット上に公開することであります。

2. 山本忠雄博士と *Growth and System of the Language of Dickens*

山本博士の *DL* 作成の構想は、1941 年頃にまでさかのぼることができます。それは、『英語青年』(1942: Vol. LXXXVII, No. 2, p. 48) に公表されました。しかしながら、当時の日本はアメリカをはじめとする連合国と戦争をしており、戦局は時が経つにつれて悪化の一途をたどりました。そこで 1944 年の早春に、博士は *DL* の作成は先送りにし、その「概説書」だけは完成させようと思立ち、同年秋に“*Growth and System of the Language of Dickens: An Introduction to a Dickens Lexicon*”と題する学位請求論文を東京帝國大學に提出されたのです。この論文によって、戦後間もない 1946 年に同大学より博士の学位が授与されました。しかし、1945 年 8 月 6 日に広島へ投下された原子爆弾によって、心血注いで集められた膨大な *DL* 作成のための資料が広島のご自宅とともに灰と化したのでした。

その後、関西大学文学部の八鳥治一教授のご尽力と関西大学英語学会の経済的支援によって、この学位論文は 1950 年に *Growth and System of the Language of Dickens: An Introduction to a Dickens Lexicon* (以下 *GS* と略す) と題して、関西大学出版会から上梓されたのです。1952 年には、博士の教え子の東田千秋と榊井迪夫による労作「目次を付した別冊」“An index to Tadao Yamamoto’s *Growth*

and System of the Language of Dickens: With supplementary notes & corrections”とともに第二版が出たのでした。この「目次」によって、この大著が大幅に利用しやすくなったのは言うまでもありません。山本博士は、GSのご功績により、英米文学語学の分野では初めて日本学士院賞を受賞なされたのです。世界の反応はというと、翌年の2月にオランダのグローニンゲン大学の N. E. Osselton 教授によって、英語学研究雑誌の権威ともいえる *English Studies* 誌上で工区高く評価されたのでした。そして、学士院賞受賞から 50 年目を迎えた 2003 年に記念事業として、久しく絶版になっていた GS が伊藤博之と高口圭輔の尽力によって広島の溪水社から、元本のページ番号を変えずに、誤植の訂正、レイアウトの整理、目次を別冊から巻末につけるなどの改訂が施されて、第三版として出版されたのです。

山本博士は、実に 47 年の長きにわたって、広島高等師範学校、広島文理科大学、広島大学、大阪女子大学、神戸大学、南山大学、大谷女子大学をご歴任なさいました。

3. The *Dickens Lexicon* の編纂と共同研究

戦災で失った膨大な DL 編纂のための資料とカードの再収集は、戦後まもなく始まりました。DL 編纂のための最初の共同研究は、1948 年度の文部省科学研究費補助金を基に、広島文理科大学の教え子との間で行われ、山本博士は *Oliver Twist*、榊井迪夫は *Bleak House*、東田千秋は *A Tale of Two Cities*、黒瀬保は *Christmas Books*、吉田弘重は *Nicholas Nickleby*、田辺昌美は *Old Curiosity Shop* の資料とカードを個々に収集しました。

1952 年に山本博士が大阪女子大学にお移りになってからは、1952 年度の文部省科学研究費補助金を基に、大阪を中心に第二の共同研究がおこなわれ、共同研究者の数は二倍に増え、榊井迪夫、黒瀬保、東田千秋、神津東雄、吉田安雄、五島忠久、松本淳、松浪有、廣岡英雄、河井迪男がメンバーでした。

この共同研究は、必ずしもうまくいきませんでした。そのことについては、*Anglica* (1962: Vol. 4, No. 5, pp. 224-5) に掲載された「*Dickens Lexicon* の作成について」に下記のように記されています：

Lexicon の作成という目標から見れば、この共同研究は初期の実験的な段階を出なかった。具体的な方針が一樣には徹底していなかったことと、実際の材料に当たった場合の判断が統一されなかったためであるが、この種類の事業を多数の協力によって完成することが、如何に困難であるかということを知った。(中略) *Lexicon* を完成するには、もっと少人数で緊密な研究を長年持続しなければならぬことを悟った。

まもなくこの研究会は解散され、その後人数も制限されて、東田千秋、吉田安雄、松本淳、河原重清が作品を分担し、第三の共同研究として、*DL* のための資料収集に少人数体制で臨んだのでした。その成果が、山本忠雄編著『ディケンズの文体』(南雲堂：1960) にまとめられています。しかし、この共同研究においてもなお、共同でカードを収集することの困難さに直面し、共同研究は中止となりました。

それ以降は、山本博士独力で用例の収集に当たられ、*Pickwick Papers* からもう一度作品の年代順にカードが集められましたが、*DL* の完成をご覧になることなく、1991年7月28日に他界されました。

4. The *Dickens Lexicon* Project 発足

山本博士の死後、博士自ら集められたカードの所在は不明のままでしたが、1997年、広島時代の教え子にご遺族から博士の蔵書を寄贈したいとの申し出がありました。その蔵書の整理中に博士の書斎の一角に膨大な数のカードを収納した大きな木製のボックスが発見されたのです。その後、ご遺族のご許可をいただいで、カードを借用し、当時の共同研究者の一人であった黒瀬保を代表として、広島大学及び熊本大学出身の研究者、総勢20名からなる *Dickens Lexicon* 編纂プロジェクトチームが、1998年に結成されたのです。メンバーは次の通りです。

代表：黒瀬保（西南大学名誉教授）

顧問：伊藤弘之（熊本大学名誉教授）、田中逸郎（尾道大学教授・広島大

学名誉教授)

実行委員長：堀正広（熊本学園大学教授）

実行委員：地村彰之（広島大学教授）、今林修（広島大学准教授）、田畑智司（大阪大学准教授）

作業委員：中川憲（安田女子大学教授）、脇本恭子（岡山大学准教授）、水野和穂（広島修道大学教授）、福元広二（鳥取大学准教授）、大野英志（倉敷芸術科学大学准教授）、澤田真由美（岩国短期大学講師）、西尾美由紀（近畿大学講師）、船田佐央子（福岡大学講師）、隈元貞広（熊本大学教授）、高口圭轉（安田女子大学教授）、竹下裕俊（尚綱大学准教授）、加茂淳一（元九州ルーテル大学准教授）、村田和穂（有明工業専門学校准教授）、村田倫子（元尚綱大学講師）（順不同、平成 22 年 4 月現在）

5. 編纂作業第一段階

DL 編纂作業は、上述のメンバーで手分けをして以下のような手順で進めました。まず、アルファベット順にカードを並べ枚数を確認しました。カードの総数は、58,273 枚に達しましたが、シェイクスピアやスモーレットなどのディケンズ以外の作品からのカードが意外と多く、下記の表 III-2 に示したように、ディケンズの作品からのカードの総数は、53,807 枚でした。それらを表 III-1 に示したように 14 人の作業員で分担し、FileMaker というデータベースソフトを使い、図 III-1 のようにコンピュータに入力しました。

6. 編纂作業第二段階

編纂第一段階が終わると私たちは以下のような問題に直面しました。

- ・ 間違った引用
- ・ 引用文の長さの不統一
- ・ 博士が利用した辞書の特定
- ・ 語義の未定義

表 III-1 編集作業第一段階の担当割

担当者	担当	総数
田中 逸郎	A2/2 (1,503), B1/4* (869), B2/4(1,284)	3,656
地村 彰之	B3/4 (746), B4/4 (1,011), C1/4 (1,064)	2,821
中川 憲	C2/4 (1,090), C3/4 (1,312), C4/4(1,399)	3,801
福元 広二	D1/3 (1,065), D2/3 (752), D3/3 (840), E1/1 (1,003)	3,660
大野 英志	F1/2 (1,236), F2/2 (1,221), G1/3 (767), G2/3 (890)	4,114
澤田真由美	G3/3 (1,195), H1/3 (795), H3/3(918), I1/1(820)	3,728
水野 和穂	J1/1 (445), K1/1 (782), L1/4(725), L2/4(803)	2,755
脇本 恭子	L3/4 (850), L4/4 (594), M1/2 (1,379), M2/2 (1,377)	4,200
伊藤 弘之	##*1/9 (629), #2/9 (441), #3/9 (801), #4/9 (815), #5/9 (671), #6/9 (772), #7/9 (341), #8/9 (978), #9/9 (514), W1/4 (707), W3/4 (583)	7,252
隈元 貞広	A1/2(1,159), R3/3 (729), N1/2 (6,519), S2/5 (1,423), Y-Z1/1 (136)	4,098
加茂 淳一	S1/5 (1,318), S3/5 (1,099), S4/5 (1,027), S5/5 (1,078)	4,522
村田 和穂	P1/3 (1,186), P3/3 (1,089), P2/3 (1,157), O1/2 (631), N2/2 (620)	4,683
竹下 裕俊	R1/3 (700), T4/6 (767), T3/6 (925), T6/6 (922), T5/6 (848), H2/3 (706)	4,868
村田 倫子	T1/6 (670), O2/2 (453), R2/3 (519), Q1/1 (181), T2/6 (838), W2/4 (620), W4/4 (834)	4,115

*B1/4 は、B のカードを 4 分割した一番目。

**#は、出典不明のカード。

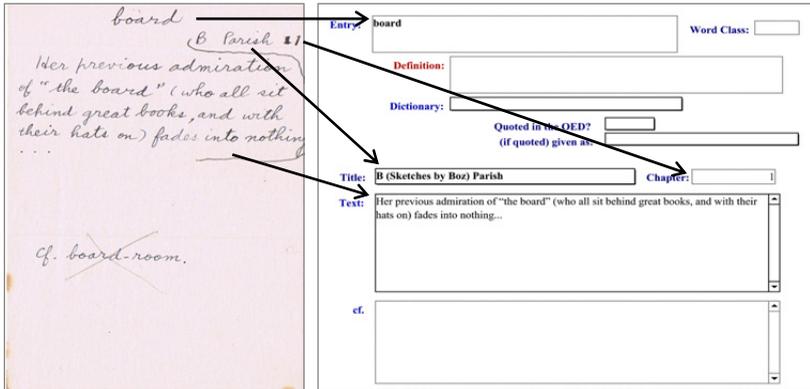


図 III-1 Board の編纂第一段階終了図

まず、編纂第二段階で修正したところは、引用文の見直しでした。第一段階で入力したすべてのカードの引用文を適切な長さにし、しかも出典を再確認しま

Entry:	<input type="text" value="board"/>	Word Class:	<input type="text"/>
Definition:	<input type="text"/>		
Dictionary:	<input type="text"/>		
	Quoted in the OED?	<input type="text"/>	
	(if quoted) given as:	<input type="text"/>	
Title:	<input type="text" value="B (Sketches by Boz) Parish"/>	Chapter:	<input type="text" value="1"/>
Text:	<input (who="" account="" all="" and="" assembled="" be="" before="" behind="" board"="" books,="" by="" conductor;="" crowd,="" fades="" for="" functionary."="" great="" has="" hats="" her="" increases—if="" inside,="" into="" lace-trimmed="" marks="" nothing="" of="" on)="" passed="" possible—the="" respect="" respect,="" shown="" sit="" solemn="" that="" the="" their="" to="" type="text" value="Her previous admiration of " what="" with=""/>		
cf.	<input type="text"/>		

図 III-2 Board の編纂第二段階終了図

した。その結果、第二段階終了後は図 III-2 のようになりました。

7. 編纂作業第三段階

DL 編纂作業は、現在第三段階に入っています。山本博士の残されたカードのおよそ3分の2は、語義が未定義のままになっています。第三段階では、未定義の語義を定義する作業をおこなっています。これには表 III-2 に示しましたようにディケンズの専門家がこの作業を担当することになりました。まず、私たちは、*The Oxford English Dictionary* (OED) 以外の博士の使用した辞書を特定しました。博士は、*The Concise Oxford Dictionary of Current English* (CED) の第二版と *The Pocket Oxford Dictionary of Current English* (PED) の初版を頻繁に使用されていることが分かりました。したがって、語義の定義には、おもに OED、COD、POD を使用することが決まりましたが、COD と POD に関しては、初版から第三版までに限定しました。理由は、どちらも第四版では20世紀の英語に対応すべく大きな改訂が E. McIntosh によってなされているからです。その結果、第二段階終了後は図 III-3 のようになりました。

表 III-2 編集作業第二段階と第三段階の担当割

担当	第二段階	第三段階	枚数
<i>Sketches by Boz</i>	今林 修	今林 修	3,799
<i>Pickwick Papers</i>	澤田真由美	堀 正広	2,690
<i>Oliver Twist</i>	中川憲	今林 修	1,807
<i>Nicholas Nickleby</i>	大野英志	今林 修	2,582
<i>Old Curiosity Shop</i>	脇本恭子	船田佐央子	1,867
<i>Barnaby Rudge</i>	西尾美由紀	西尾美由紀	1,550
<i>Martin Chuzzlewit</i>	竹下裕俊	西尾美由紀	3,604
<i>Dombey and Son</i>	隈元貞広	高口圭轉	3,130
<i>David Copperfield</i>	田畑智司	田畑智司	5,108
<i>Bleak House</i>	村田和徳	伊藤弘之	3,683
<i>Hard Times</i>	高口圭轉	高口圭轉	1,027
<i>Little Dorrit</i>	福元広二	西尾美由紀	2,879
<i>A Tale of Two Cities</i>	高口圭轉	高口圭轉	984
<i>Great Expectations</i>	水野和徳	船田佐央子	2,054
<i>Our Mutual Friend</i>	加茂淳一	伊藤弘之	3,483
<i>Edwin Drood</i>	船田佐央子	船田佐央子	1,317
Letters	伊藤弘之	伊藤弘之、堀 正広	689
Speeches	伊藤弘之	伊藤弘之、堀 正広	526
Miscellanies	堀 正広	堀 正広	11,028
総枚数			53,807

Entry: **Word Class:**

Definition:

Dictionary:

Quoted in the OED?
(if quoted) given as:

Title: **Chapter:**

Text:

cf.

図 III-3 *Board* の編纂第三段階終了図



Dickens Lexicon Web



WITH ELECTRONIC TEXTS



Standard Query Options:

Text search: Word(s)/phrase(s)

Lexicon entry

Definition

Word class

Title search

Date

Electronic text search:

Dickens Textbank

18th & 19th Century Textbank

図 III-4 The *Dickens Lexicon* on the Web

8. インターネット上の*The Dickens Lexicon Online*

幸運なことにこのプロジェクトは、日本学術振興会 2008-2010 年度科学研究費補助金の対象になりました。前述しましたように、その目的は、山本忠雄博士が構想されましたが、ついに生前に完成を見なかった *DL* のために博士自ら収集された 58,273 枚にもおよぶ手書きのカードをコンピュータに入力し、多機能検索エンジンを搭載した *The Dickens Lexicon Online* としてインターネット上に公開することであります。現時点での私たちの構想は、ディケンズの作品のみならず、彼の手紙や講演などを全て含めた大規模コーパス *Dickens Textbank* と 18、19 世紀の文学作品を収録した *The 18th and 19th Century Textbank* を相互に検索できる検索エンジンを実装した *The Dickens Lexicon Online* をインターネット上に公開できたらと考えています。